

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
		本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 75.0% ○全国学力・学習状況調査やCBTの結果では、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国平均や東京都平均、港区平均を上回っており、おおむね身に付いているといえる。 ○全国学力・学習状況調査やCBTの結果によると、3領域の中では「書くこと」に関する正答率が低い。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことに課題が見られた。 ○書くことに対しての苦手意識や抵抗感が強く、書く内容が思い付かない児童や、相手意識・目的意識をもって分かりやすく書くという思いをもてない児童が多い。 ○CBTの結果によると、「読むこと」の文学的文章の読み取りに関して、叙述を基に登場人物の気持ちや場面の様子について読み取る力に課題が見られた。また、文章の内容を正しく読み取ったり、読んで分かったことを共有したりすることがまだ十分ではない。 ○CBTの結果によると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低い学年がある。語彙が少なく、自分の思いを伝える	○目的をもって学習に取り組めるよう、明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定する。また、児童自身がめあてをもって学習に取り組んだり、自分の学びを振り返り、次に生かしたりすることができるように指導する。 ○協働学習支援ツールを使用して、考えを伝え合ったり発表したりする活動の中で、互いの考えを受容する雰囲気をつくり、相手の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりする機会を設ける。 ○日常的に文や文章を書く機会を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らす。また、苦手意識をもつ児童に対して、個別指導やスモールステップで達成感を得られるような工夫を行う。 ○書くことにおいて、目的意識や相手意識を明確にもたせる。書く内容を児童の身近な題材と結び付けて設定するなど、児童が主体的に書く活動に取り組めるよう工夫する。 ○高学年では、書いた文章を互いに読み合い、推敲する経験を積み重ねる。その際、相手意識や目的意識を明確にもたせることで、記述内容の充実を図る。 ○「読むこと」では、学習課題や発問を工夫することで、児童が意欲的に文章を読み進めていけるようにする。また、児童同士の協働的な活動を通して学習内容を深めていく。 ○叙述を根拠に登場人物の気持ちや場面の様子を想像させる。言葉に着目し、別の言葉で言い換えたり詳しく説明させたりして具体的に想像できるようにする。 ○言葉そのものに興味をもたせたり、言葉のよさに気付かせたりするような指導を行う。その際、国語辞典や教科書巻末の「言葉のたから箱」を

国語

令和8年度 授業改善推進プラン

		ために適当な言葉や表現を考える力が弱い。3年生以上で国語辞典の使い方がまだ定着していない。 ○漢字の形を整えて書き、文や文章の中で使うことに課題がある児童が多い。覚えた漢字を日常の中で使おうとする意識もまだ十分ではない。	活用する。 ○漢字については、教科書の「漢字の広場」等、既習漢字を用いた文や文章を書く活動を定期的に取り入れ、漢字に対する苦手意識や抵抗感を減らしていく。漢字を書くことだけでなく、成り立ちなどを合わせて指導することで、漢字に関心をもてるようにする。また、日常の中で漢字を使って文を書くことを意識させ、漢字を使うことのよさを実感させたり、朝学習や家庭学習等を活用し、繰り返し学習することで定着を図ったりする。 ○学校図書館を活用し、担任や司書・図書支援員が読み聞かせをしたり調べ学習を取り入れたりして、読書活動を充実させ、語彙を増やし、言葉に親しみがもてるようにする。
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	○主体的に課題を追究する力 ○情報を選択、活用する力 ○社会的事象を自分の生活と関連付けて考える力	○資料等から自ら学習問題を見だし、単元を通して解決していこうという意欲をもち学習すること。 ○表やグラフ、写真などの資料を適切に読み取ること。また、読み取ったことを適切に表現し、問題解決に活用すること。 ○複数の資料を関連付けて、社会的事象を読み取ること。 ○地域社会の一員として、大切なことや行っていることを実生活と結び付けること。	○児童の興味関心を引き出す導入を行い、主体的に課題を追究することができるよう学習活動を設定し、問題解決の過程を重視する。 ○調べ学習の型を指導し、分かったことを基に考えたことを書く時間を毎時間設定する。 ○資料を関連付けて考えさせるために、時間の流れや変化の仕方、時代とともに変わった点など、資料を読み解く上で必要な視点を習得させる。 ○地図やグラフなどの資料の見方を指導し、必要な情報を読み取り、活用する力を育成する。 ○情報機器を活用することで、社会的事象への関心をもたせる。 ○学習したことを発信できるようにする。学校生活での取り組みなどとなげて、学習した内容を日常生活に生かす場を設ける。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算数	○数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力 ○図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力 ○伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力 ○身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力 ○数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度	〈第1～2学年〉 ○計算だけでできればよいのではなく、場面を理解して立式したり、考え方を説明したりする力が不十分である。 ○「知識・技能」、「思考・判断・表現」共におおむね身に付いているといえるが、繰り上がりや繰り下がりの問題の正答率がやや低い。 ○「水のかさ」や「長さのたんい」では、単位換算して答える問題の正答率が低い。また、定規を使って直線を引くことや、正確に直線の長さを測る問題の正答率が低い。 〈第3～6学年〉 本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 72.4% ○標準学力調査(CBT)の結果では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に推定全国値を上回っている。港区平均を下回る領域は以下の通りである。 第3学年→「数と計算」 第4学年→「数と計算」 「データの活用」 第5学年→「図形」 「データの活用」 各学年で最も正答率が低い領域は以下の通りである。 第3学年「数と計算」 第4学年「データの活用」 第5学年「データの活用」 第6学年「データの活用」 ○全国学力・学習状況調査の結果では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国平均や東京都平均を上回っている。正答率が低かった設問は以下の通りである。 「目的に応じて適切なグラフを	○問題場面を正確に捉えるために、授業で問題を扱うときには、「どんな条件が提示されているのか」「何を求めるのか」を明確にすることで児童が立式の根拠を説明できるようにする。低学年では、「聞かれていること」「分かっていること」に線を引き、問題場面を整理して捉えるとともに、問題となる場面を具体物操作と半具体物操作で確認してから図や式に表すようにする。考えについては、図や具体物を用いて説明する機会を設けていく。中学年以降では、既習事項を確認した上で、図や表と関連付けて説明できるように指導する。 ○テープ図や数直線図など、学年相応の図や表を用いて、立式の根拠を明らかにして解決できるようにする。 ○割合の系統的指導については、問題文に書かれた情報を必ず数直線図に表すよう指導する。「数直線図・□を使った式・答え」のワンセットで学習する流れを徹底して指導していく。 ○図形領域の指導において、定規、分度器、コンパスなどの測定や作図で用いる教具について、その正しい使い方やそれぞれの特徴について、各学年で用いる際に繰り返し確認していく。また、図形の作図方法について復習する時間を設け、教具を正しく使って正確に作図できるようにする。図形の具体物を用いることで構成要素の位置や数を理解しやすくし、定着を図る。 ○自分の考えを分かりやすく説明するためには、分かりやすく自分の考えを伝えるという目的意識をもたせた上で、自力解決に取り

令和8年度 授業改善推進プラン

	選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみること」「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみること」	組ませることが大切である。まず、一人一人が自分の考えをもてるよう、学級全体で見通しを確認し、共有する。次に、自力解決の時間には児童のよい考え方を称賛し、児童に自信をもたせた上で解決に取り組ませる。そして、互いのノートやタブレット端末を見合い、他者の意見を取り入れてよりよい考えを構築する時間を作る。分かりやすい考えについては全体に共有し、どのように考えを書けば、友達に自分の考えが伝わるのかを考えるよう指導する。 ○算数科は、系統的に内容が連なっている。本時で学習する問題も以前学習した知識を活用して解決していく。そのことを踏まえ、1時間で完結するのではなく、常に、「今日は、前回のこのような内容を活用して問題を解決した。」 「次はこんな問題を解決してみたい。」など、学習の振り返りを書かせていく。このノートが学習の積み重ねになり、困ったときには自分のノートやタブレット端末を振り返り、解決の手だてとできる児童を育成していく。 ○自主学習や家庭学習等で、繰り返し練習問題を行うことで、「数と計算」領域の基本的な学力の定着を図る。 ○資料の一つ一つの情報を漏れなく正確に数える方法を確認し、資料から読み取ったことを正確に表やグラフに表せるようにする。
--	---	---

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	○自然事象に対する基本的な概念や知識、規則性の理解、科学的に問題を解決するために必要な観察・実験等の基本的な技能 ○自然事象から問題を見いだす力、問題の予想や仮説を発想する力、解決の方法を発想する力、観察・実験の結果を解釈し結論を導く力	○科学的に問題を解決するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能 ○観察・実験の結果を解釈し、結論を導く力 ○学習内容を応用し、異なる事象の解釈へ応用する力	○ICTを活用してビデオや映像で様子を見せ、観察・実験を視覚的に理解できるようにする。 ○実験前の予想や仮説を立てる時間を確保し、仮説にあった実験方法を探る経験を増やす。 ○実験を通して、根拠を明確にして予想を考えさせる。ワークシートやノートを活用して、言語化させる。実験結果から、どのようなことがいえるのか学級全体で共有し振り返りを行うようにする。 ○可能な限り実物を用いて観察・実験を行う。 ○巻頭の「理科の学び方」のページを確認しながら活動を進め、児童自身が現在どの段階なのかつかみやすいようにする。 ○学習内容を友達に説明する活動を増やし、知識の活用を促す。教科書の実験以外の場面を考えさせる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	○学校、家庭及び地域に親しみをもち、安全に生活する力 ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える力 ○自立し、生活を豊かにしていく力	○家庭生活で互いに支え合い、自分の役割を積極的に果たすことが難しい児童もいる。 ○身近な人々と伝え合ったり、自然や植物と関わったりして、すすんで楽しく交流することに課題がある児童もいる。	○安全に生活する力を高めるためには、日々の学校生活の中で、児童の実態に合わせて、その都度考えさせる。 ○ICTを活用し、植物の成長の様子などを指導者が紹介したり、児童のタブレット端末を用い、互いに植物の成長の様子などについて紹介し合ったりして、興味や関心を高めさせ、すすんで世話をし、植物に親しみをもち、大切にすることができるようになる。 ○地域の人と昔遊びなどで関わりをもたせるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	○音楽の要素の働き方と曲想との関わりを感じ取ったり考えたりしながら、曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えて演奏したりする力 ○主体的・協働的に学びながら、自分の感じ方や考えを広げたり、修正したりしながら探究し、学びを深めていく力	○楽器の基本的な奏法が身に付いていない児童が見受けられる。 ○音楽の要素を手がかりに、曲のよさを感じ取ったり演奏したりすることや、自分なりのイメージを豊かに広げたりすることが苦手な児童が一定数いる。 ○全体的に「聞く」「聴く」力が不足している。また、疑問をもって粘り強く探求する意欲に欠ける児童が少なくない。	○常時活動で、基礎・基本を身に付けさせながら、題材や教材曲に合わせて発問・学習形態、ワークシートの内容を工夫したり、ICT活用したりすることにより学習効率を上げ、深い学びが実現できるようにする。 ○授業内での、児童のアウトプット・インプットバランスに留意するとともに、児童同士の意見交流や、グループでアンサンブルづくりをするなどの、音楽活動を通して、主体的・協働的に学べるようにする。 ○技能の定着を目指し、楽しんで取り組める活動を取り入れる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	○造形的・創造的な視点について理解し、発想や構想したり、自分の見方や感じ方を深めたりしながら、身近な材料や用具を使い表し方を工夫して自分なりに表現する力 ○感性や想像力を働かせ、造形的な発想や構想をしたり、自分のイメージをもちながら意味や価値を創り出したりする力	○自分なりの発想や構想していくことに経験的な個人差がある。見通しをもって計画的に進めることが難しかったり、試行錯誤を重ねながら粘り強く表現したりすることが難しい児童がいる。また、自分で価値付けして作品を進めていくことに自信がなく、躊躇してしまう児童も見られるため、作品作りに取り組む前からの意欲を高める必要がある。 ○いろいろな発想ができる児童が多いが、対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解したり、表現技能が追いつかず、材料や用具から自分なりに表したりすることが難しい児童も見られる。	○児童の実態や発達に応じた題材や材料設定を行い、児童の意欲を高めるように作品作りの予告をしたり、導入を工夫して視点を絞って表したいことを思い付くようにしたりして、児童の興味関心を引き出す。また、作品鑑賞の時間を確保し、他の児童の活動を参考にしながら見通しをもって取り組める力を伸ばす。 ○様々な材料や道具に触れたり、経験したりできるような題材設定を行い、児童が自ら考え、選択し、試し、価値付けをして表現していくという環境づくりを行い、経験を積み重ねられるような題材設定を行うことで基本的な力を伸ばせるように促す。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	○日常生活に必要な基礎的、基本的な知識及び技能を身に付ける。 ○生活を見つめ、家族の一員として家庭で実践する力をつける。	○生活経験が乏しく、調理や裁縫の技能が十分に身に付いていない。 ○既習事項が十分に身に付いていないため、学びの積み重ねや工夫ができない。 ○学習したことを生活に生かしたり、家庭で実践したりしようとする意欲が低い。 ○学習したことを、家庭生活で繰り返し実践できていない。	○実践的、体験的な活動を重視した学習を展開する。その中で、動画等のICT教材を活用し、調理や裁縫の技能を視覚的に理解できるようにする。また、地域支援ボランティアなどの人材を活用し、個別に支援できる体制を整える。 ○実践を重ねることにより身に付くことを意識させる。家庭での実践において、保護者にも協力を依頼する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	○特性に応じた運動の行い方や、健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける力 ○運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力 ○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度	○学習したことを共有したり、相手に分かりやすく伝えたりする力が課題である。 ○1年男子は特に立ち幅跳びが全国より3cm、ボール投げは2m低い。女子は立ち幅跳びが6cm、長座体前屈が3cm低い。 ○2年男子は長座体前屈が4cm、立ち幅跳びが2cm低い。女子は立ち跳びが2cm、長座体前屈が2cm低い。 ○3年男子は長座体前屈が4cm低い、女子は反復横跳びが3回少ない。 ○4年男子は長座体前屈・立ち幅跳びが2cm、ボール投げが2m低い。女子は反復横跳びが2回少ない。 ○5年男子は長座体前屈が2cm低い、女子は20mシャトルが2回少ない。 ○6年男子は立ち幅跳びが2cm、ボール投げが2m低い、女子はボール投げが3m低い。 ○運動する子とそうでない子が二極化している。	○単元を通して、身に付けさせたい3つの資質能力を明らかにして指導を行う。 ○振り返りで学習カードを活用し、自己の課題を見付けさせたり、次のめあてをもたせたりする。 ○児童の様子や学習カードの記述から学習状況を見取り、適切な言葉掛けを行う。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	○場面や状況に応じたコミュニケーションを行う力 ○既習言語を用い、豊かなコミュニケーションを行う力 ○自らすすんでコミュニケーションを図ろうとする力	○相手に対して、どのようにして英語で伝えたらよいか考える力を付ける。 ○相手の思いや考えに耳を傾け、誰に対しても自分の思いや考えを英語で伝えようとする力を育む。	○児童の手本となるコミュニケーションを示せるよう、担任又は専科教員と NT のティーム・ティーチングを充実させる。 ○聞く力を伸ばすために、ある程度長い会話のリスニングを設け、英語のリズムやアクセントを身に付けさせる。 ○児童が必要を感じる課題を設定し、「やりとり」や「スピーチ」等の言語活動を充実させる。 ○ワークシート等を用いて、音声に慣れ親しんだ語句を読む・書く技能を定着させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする力 ○希望や勇気、努力と強い意志を持ち高い目標に向かって努力できる力 ○自立心や自律心をもって人としてよりよく生きる上で大切なことや自己の生き方について考えを深める力	○差別や偏見のない思いやりの心情を育む。 ○目標に向かって努力できる力を伸ばす。 ○よりよく生きる上で大切なことや自己の生き方について考えを深める。	○授業後半に教材を通して自己を振り返る時間や見つめ直す時間を確保する。 ○学習内容を多面的・多角的に考えられるようにするため、ペアや全体での話し合い活動を取り入れる。 ○教材を効果的に提示するために、場面絵や I C T を活用する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	○学級や学校の生活上の課題を見だし、よりよい解決に向けて話し合う力 ○友達の考えを尊重しながら合意形成を図り、自分の役割や責任を果たす力 ○集団の一員として主体的に実践し、よりよい人間関係や学校生活を築こうとする態度	○話し合いの形に慣れておらず、自分の考えを根拠をもって伝えたり、友達の意見を深めたりして合意形成することができない。 ○学級を自分たちでよりよくしていこうという意識が十分でない。 ○高学年として、学校のために役立とうという思いをもって委員会活動や行事に取り組む力が十分ではない。	○年間指導計画を基に、見通しをもって活動に取り組み、計画的に話し合い活動に取り組めるようにする。 ○キャリアパスポートを活用し、行事や日々の生活を通して成長したこと、次に生かしたいことなどに一人一人が気付けるようにする。 ○特別活動部から提案して、学級会は各クラス自主的な態度を育てられるように、児童が中心となって話し合いができる環境を整える。

令和8年度 授業改善推進プラン

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解しようとする。 ○実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して・まとめ・表現することができるようにする。 ○探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度をもつ。	○自ら課題を設定する経験が少なく、探究する価値のある課題設定をすることが難しい。 ○課題の解決に向けて、見通しをもって粘り強く取り組むことが難しい。 ○互いのよさを生かしながら取り組む経験が乏しい。	○児童自身が「調べてみたい」「解決したい」「伝えたい」と思えるような課題との出会わせ方を工夫する。また、単元全体の計画を子ども主体で立てさせることで、見通しをもって主体的に活動に取り組めるようにする。 ○他教科での学習を生かし、情報収集、整理・分析、まとめ、表現する活動をくり返し行う。 ○情報活用能力や問題発見・解決能力を構成する個別の知識・技能など身に付ける機会を作る。 ○他の児童と協働的に取り組むことで、解決の糸口がつかみやすくなったり、新しい考えがでたりするような経験ができるように、思考ツールなどを活用して考えを共有できる学習を行っていく。 ○プログラミング学習については、情報担当と連携し、教員同士での学び合いの場を設定したり、授業を見合ったりする。I C T支援員を授業内でも効果的に活用していく。